

ASUMA

Agri Support Machinery

三菱農業機械
ユーザー情報誌

8号

クローズ
アップ

特集

TPP への対応について

東大大学院 本田正義教授

■ ASUMA フォーラム

トラクタ
GM450・GM500・GM550 (排ガス規制クリア)
汎用コンバイン
VCH750 (排ガス規制クリア)

■ 三菱ユーザー紹介

(京都府 / 滋賀県)

■ ASUMA 農業ファイル

TPP への対応

■ ごはん讃歌 タレント照英さん

■ 日本酒ブーム

■ 読者広場

**三菱農機株式会社は
インドのマヒンドラ&マヒンドラ社と資本提携し
三菱マヒンドラ農機株式会社として
生まれ変わりました。**

三菱農機株式会社は平成27年5月21日、マヒンドラ&マヒンドラ社との戦略的協業による資本提携に合意し、10月1日付けで社名を「三菱マヒンドラ農機株式会社」に変更しました。

三菱マヒンドラ農機株式会社は世界トップのトラクタ生産台数を誇るマヒンドラ&マヒンドラ社の製品開発力、コスト競争力、インド・中国・アメリカをはじめとした世界規模の販売網と三菱重工グループの技術力、ブランド力の両方を生かしながら、国内およびグローバル市場での競争力を強化して、ビジネスを発展させていきます。

今後もASUMAブランドのトラクタ、コンバイン、田植機、管理機をはじめ、多くの商品を市場投入していきます。



照英さん

Profile

1974年4月、埼玉県生まれ
1996年、全日本大学選手権・ひろしま国体などに、やり投げ競技で出場し活躍しました。
その後モデル活動を経て、映画、ドラマに出演、バラエティ番組などで多数出演し活躍中。

ごはん讃歌

やり投げとの出会い。

私には二つに姉がいます。その姉の影響で、小さい頃は女の子のように育ちました。小学校に入って、野球と水泳を始めましたが、そこから負けず嫌いの性格に変わりました。中学の体育でハンドボール投げテストのとき、野球をしてみたこともあり、投げたみたらずい早く、走りもけっこう早く、走り幅跳びも結構飛べ、跳躍力もありました。

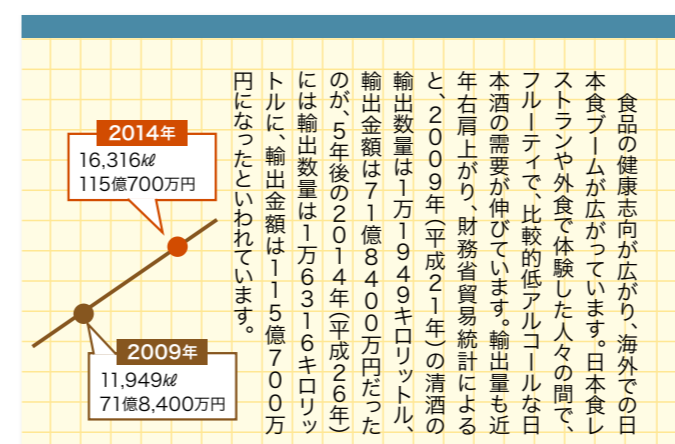
顧問の先生から走跳投が揃っている人は投てき種目に向いていると言われ、その場で試しに、やりを渡されて投げてみたら、自分でもびっくりする程飛びました。これがやり投げとの出会いでした。中学生にはやり投げという種目がなかったので、三種競技(100m走・砲丸投げ・走り高跳び)に取り組みました。高校に入って、本格的にやり投げに取り組みましたが、一年

生の時からよい記録が出ました。中学の時にやった競技のせいで体力や肩の力などがついてたのだと思います。高校で県大会に出て、大学で学生選手権、国体に選ばれて、そしてジュニアオリンピックなどの大会に出ることができました。今から思えば中学の時の先生に感謝しています。スポーツに出会えて良かったなあとも思っています。

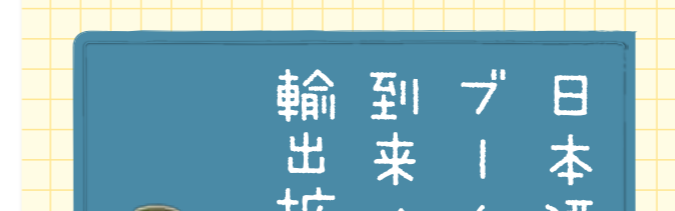
持っていくだけで大荷物だった。中学の時にやった競技のせいで体力や肩の力などがついてたのだと思います。高校で県大会に出て、大学で学生選手権、国体に選ばれて、そしてジュニアオリンピックなどの大会に出ることができました。今から思えば中学の時の先生に感謝しています。スポーツに出会えて良かったなあとも思っています。

大学卒業のとき、社会人としてスポーツし、その後指導者としての道を歩むなどがありました。自分らしい仕事とは何か考えました。肉体と体力が生かせるかと思っていきました。その頃、見た雑誌に海外の筋肉系モデルさんが載って、自分が受けた、逆に興味を持っていました。これなら自分もできるかもと思いました。男性モデルのオーディションを受け、この仕事に取り組みることになりました。その後、ドラマの筋肉系の役のオーディションにも受かりまして、役者もはじまりました。それで照英というキャラクターが認められたのかなあと思います。スポーツに出席して、この体ができ、そしてモデルや役者になった、今があるわけですね。自分の原点はあくまでアスリートです。自分らしさ、照英らしさを生かした仕事ができたらと思っています。

照英らしき生かす



食品の健康志向が広がり、海外での日本食ブームが広がっています。日本食レストランや外食で体験した人々の間で、フルーティで、比較的低アルコールな日本酒の需要が伸びています。輸出量も近年右肩上がり、財務省貿易統計によると、2009年平成21年の清酒の輸出数量は1万1949キロリットル、輸出金額は71億8400万円だったのが、5年後の2014年平成26年には輸出数量は1万6316キロリットルに、輸出金額は115億700万円になったといわれています。



日本酒ブームが到来、輸出拡大。

たといわれまます。日本酒をベースにしたカクテルを提供しているレストランもあります。ヨーロッパにおける普及については、日本文化への関心が高く、料理や器など、味わいと雰囲気好まれて、酒づくりや伝統・歴史にもかかわらず、日本酒の需要拡大につながっています。一方、国内では日本酒は中高年男性の酒というイメージがありましたが、近年は若者の新しいライフスタイルに合うよう、新しい需要が生まれつつあります。ひところ需要低迷に悩んでいた蔵元にも、新しい展望が開けそうです。お米を原料とする日本酒の消費拡大は生産農家にとっても即効です。さらに一層の需要拡大を望みます。

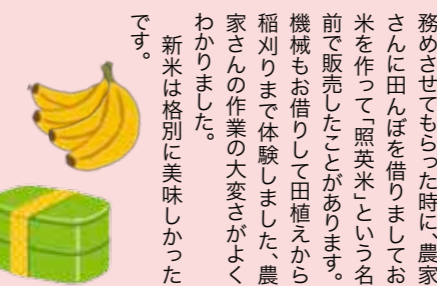
ASUMA 読者広場

新たに発定した三菱マヒンドラ農機でもトラクタ・田植機・コンバイン・管理機の愛称はそのまま ASUMA です。ASUMA とは安全作業 (Anzen) をサポートし、安心品質 (Anshin) をサポート、明日 (Asu) の農業をサポートするという意味が込められています。皆様によくご愛顧いただけるよう三菱マヒンドラ農機製品にこの ASUMA の思想を織り込んで続々生まれています。ユーザーの皆様の一層の応援をよろしくお願いいたします。



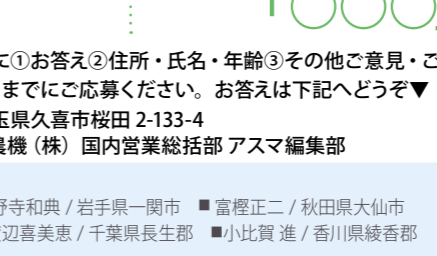
お答えはハガキに①お答え②住所・氏名・年齢③その他ご意見・ご感想等を書いて下記の宛先に2016年3月末日までにご応募ください。お答えは下記へどうぞ▼
〒340-0203 埼玉県久喜市桜田2-133-4
三菱マヒンドラ農機(株) 国内営業総括部 アスマ編集部

本社 島根県松江市東出雲町揖屋 667-1 ☎0852(52)2111(代)
東京事務所 埼玉県久喜市桜田2-133-4 ☎0480(58)7050
販売会社 三菱農機販売(株) 本社 埼玉県久喜市桜田2-133-4 ☎0480(58)9524
北海道支社 ☎0123(22)1234 東北支社 ☎022(207)3711
関東甲信越支社 ☎0480(58)9521 中部支社 ☎0776(27)3078
西日本支社 ☎0869(24)0820 九州支社 ☎0942(84)1888



編集部では楽しいプレゼントが当たるクイズを用意いたしました。三菱マヒンドラ農機製品のキャラクターの愛称を当ててください。下記の〇〇〇に相応しい文字を当てはめてください。正解の方に抽選で「照英さんのサイン入り色紙」と豪華プレゼント(作業帽と卓上デジタル時計)が当たります。

クイズ 三菱マヒンドラ農機のキャラクターは「〇〇〇〇」ちゃんです。



情報誌アスマ編集部へのたくさんのご意見・ご感想・励ましの言葉ありがとうございました。

ASUMAとは
安全作業 (Anzen) をサポートし、
安心品質 (Anshin) をサポート、
明日 (Asu) の農業をサポートする
という意味が込められています。
安心・安全・明日を追求する
三菱マヒンドラ農機のブランドです。



ASUMA 新製品情報

多彩な収穫シーンで威力を発揮 汎用コンバイン

VCH750



ACTIVE TOUCH パネルの指先操作で
進化したオペレーションを実感。

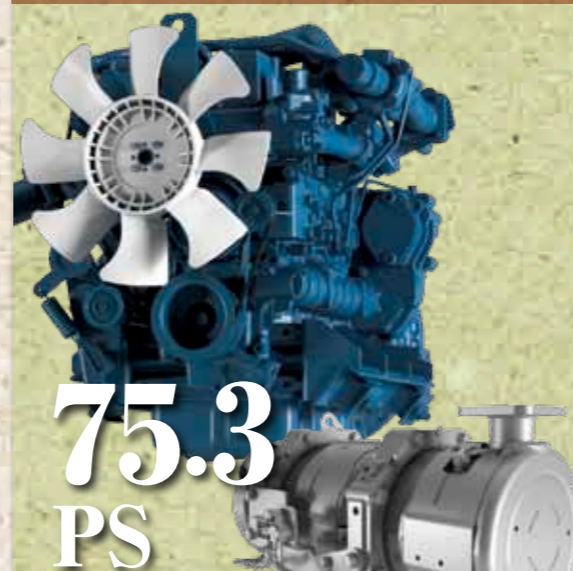


ACTIVE TOUCH パネル

作業中の状況や機械の情報を、リアルタイムに解りやすく表示する「ACTIVE TOUCH パネル」を標準装備。パネルはとも見やすい7インチカラー液晶画面で、操作しやすいタッチパネル式です。



コンパクト、
そして圧倒的なパワー



75.3
PS

国内特自4次排気ガス規制クリア
高出力・省エネエンジン搭載

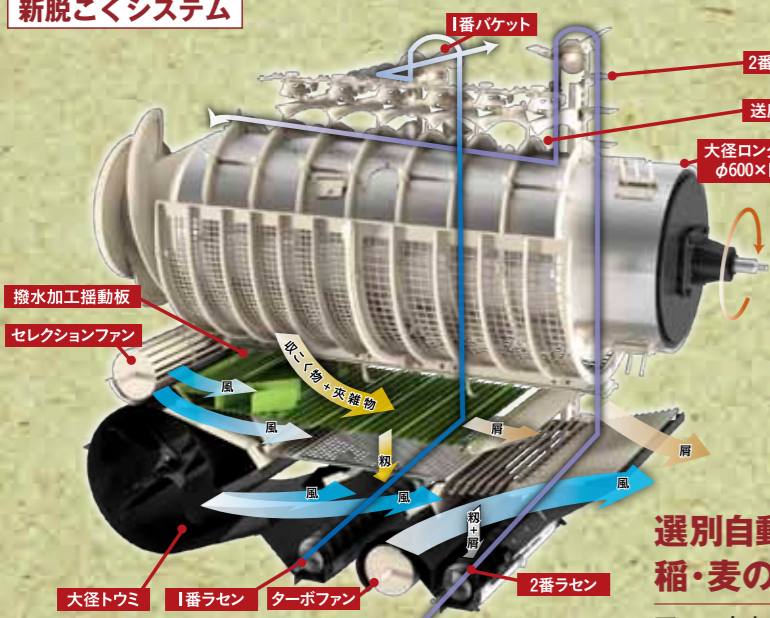
高出力かつ低燃費の75.3PS コモンレールエンジンを搭載。さらにDPF (ディーゼル微粒子捕集フィルタ)・ブローバイガス還元装置を搭載し、厳しい排気ガス規制に対応します。また状況に合わせて自動でDPF再生を行うので、手動による再生の手間を省きます。

簡単操作
エンジン
回転制御



自動で作業に適したエンジン回転数に制御。アクセル操作の手間を省き、取扱いミスによるトラブルを防ぎます。作業機クラッチを切ればエンジン回転がさがり、ムダな燃料消費を抑えます。

新脱こくシステム



新たな高機能で、
多彩な作物に応じた
高精度脱こく。
選別を実現

選別自動制御で
稲・麦の選別精度が向上

フロートセンサによる選別自動制御を採用。最適なフィン開度に制御し、選別精度が向上します。また自動で開閉するため、これまで必要だったフィン開度調節の手間も軽減できます。



稲・麦以外は格納できます。

セレクション
ファンが
余裕の選別を実現

揺動板上部前方に、新たにファンを設置。こぎ胴で脱こくし、揺動板上に落ちる間にくずと収穫物を分離させることで、揺動板上の選別物を減少させ、余裕のある揺動選別を実現します。



作業性を重視したベースマシン

GM450
GM500
GM550



国内特自4次排気ガス規制に
対応した高機能エンジン

エンジンの燃焼室形状の最適化、超高圧燃料噴射システム、高度な燃料噴射制御、過給機仕様の最適化といった最新テクノロジーを融合し、エンジン内での燃焼効率を向上しました。

高トルクライズ

従来機※に比べ、GM450では約6.8%、GM500では約8.9%のトルクライズ性能がアップ。低回転でも強力なトルクを発揮します。

優れた燃費性能

燃料消費率は従来機※比で約3~11.5%向上しました。

※ GM450は従来機GX461対比・GM500は従来機GX511対比

パワフルディーゼルエンジン

2,216ccの水冷4気筒ディーゼルトーボエンジン。GM550はインタークーラーを搭載しました。

安心のエンジン保護機能

一定の温度を超えると自動で出力をセーブする安全保護機能搭載。

W 制御で差がつく耕うん作業

ジャイロMACとVRC。2つの制御の相乗効果で抜群の耕うん精度を発揮します。次期作業がスムーズに行えます。

仕上げに差がつく
ジャイロMAC

機体の傾く速度を感知する、ジャイロセンサを搭載。機体の傾く速度に応じてロータリの制御スピードを最適にします。ジャイロセンサは本機内蔵式なので、均平性が重要な代かき作業でも威力を発揮します。



条件を選ばない
ベストな耕深制御

ほ場条件に合わせて、耕深制御内容を変化。畑など凹凸の少ない耕盤ではロータリの動きを抑え、あぜ際や枕地などでは積極的にロータリを動かします。



雑草などのかたまりを乗り越えてもリヤカバ位置を一定に保ちます。
均平

あぜ際や枕地など凹凸が大きい場所ではロータリをすばやく動かし均平にします。
均平

作業をしっかり
サポートする
充実機能が満載。



LED 作業灯 (後方) [X仕様]



新型パネル



※写真はフレーム仕様
デラックスシート [ET仕様除く]



経営規模 水稲15ha(受託2ha)
畑5ha(受託2ha)
ハウス10a
保有機械 大型トラクタ3台、
大型コンバイン2台、
田植え機1台、
その他、乾燥機6台、
粉摺り機1台



相当セールスマン
左から滋賀三菱農機 北健一さん
三菱農機販売 吉良芳信さん



左から浮気正男・浮気正男(代表取締役)・山路哲也(取締役)・
山路宗明・大橋一幸さん

USER VOICE

滋賀県東近江市

(株)ファームカモン

代表取締役社長 浮気正男 さん



滋賀県東近江市伊庭町を
お訪ねしました。



「米だけの経営がきびしい」との判断から、浮気さんの後継者(取締役)として、野菜や果物も手がけることになりました。とはいえ、経験はゼロ。種苗屋さんにも教えてもらってアムス2号というメロンを作ることにしたのです。

「玉は小さいのですが、糖度が16から18もあり、非常に甘いものです。今年で3年目ですが、温度管理などに苦労しつつ出荷しています。メロン栽培は手もかかるし、気も使います。でもこれからの農業はリスクがあってもチャレンジしていかないと未来が開けないと思います」

負荷価値の高いメロンにチャレンジ

山路さんも兼業農家だったのですが「メロン栽培では経営がきびしい」との判断から、浮気さんの後継者(取締役)として、野菜や果物も手がけることになりました。とはいえ、経験はゼロ。種苗屋さんにも教えてもらってアムス2号というメロンを作ることにしたのです。

「玉は小さいのですが、糖度が16から18もあり、非常に甘いものです。今年で3年目ですが、温度管理などに苦労しつつ出荷しています。メロン栽培は手もかかるし、気も使います。でもこれからの農業はリスクがあってもチャレンジしていかないと未来が開けないと思います」

「米作りで大事にしているのが水。辻村さん宅では、ほぼ無農薬で作っています。それには水質管理が大切で細心の注意を払っています。地下水をポンプアップしていますが、その地下水も常に検査しています」

水のほかに、肥料にも気をつけている

農地集積のスピードアップに期待

「(株)ファームカモン」では、現在約6ヘクタールで小麦や大豆も作っています。が、メインはやはり米。ミルクイーンやコシヒカリ、キヌヒカリ、志賀羽二重餅などを栽培しています。課題はやはりコストだと言います。コスト低減するためにできるだけ合理化し、機械化しているところ。浮気社長は、「これからも米の値段は下がっていくでしょう。食味

琵琶湖畔の肥沃な土地柄

それでも浮気さんはこの土地にこだわります。「ここは琵琶湖に近く、琵琶湖へ流れる水はきびしく管理されていますから、圃場から直接流せません。おまけに圃場が団地化されていないから、水管理が大変なんです。今は琵琶湖の手前まで堰き止めそこでポンプアップして田んぼへ入れていますが、手間がかかりますね。それだけ土地を大事にしているということでもありますから、ここで作る作物は品質がいい事が当たり前かもしれません。琵琶湖畔の肥沃な土地柄ですからね」そして、浮気社長は言います。「将来補助金はあてにできないから、自力でやるしかないでしょう。そのための方策として法人化したわけです。またスタートしたばかりですが、収益もプラスになっているし、法人化してよかったと思っています」

これからの農業を見据え、米と野菜栽培に加え
戦略作物としてメロンに挑戦、着々成果上げる

滋賀県の南東部に位置する東近江市は三重県との県境にあり、東には鈴鹿山、西には琵琶湖を控えた緑豊かな田園地帯です。同市の伊庭町には80戸の農家があり、のべ140ヘクタールの農地があります。ほとんどは兼業。そんな中、法人化して農業に専念しているのが「(株)ファームカモン」。代表をつとめる浮気正男さんは20数年にわたり兼業農家でしたが、平成25年に同じ集落の山路哲也さんと話し合っ法人化することに。74歳の浮気さんと30歳の山路さんが、年齢差を超えて意気投合したのです。ちなみに「カモン」は浮気さんの屋号「加門」からとったものです。

ほかにトマトやキャベツ、大根なども作っていますが、山路さんの戦略は少量高品質。大量に生産するのではなく、少量でも質のよいものを作っていました。高品質なものを高く販売して利益を出していきたいですね」

メロン栽培では、ハウス内の水の量を一定にしないと糖度がバラバラになってしまうので、そのあたりに留意しながら栽培していくとのことでした。現在、米、麦、大豆などはJAへトマト、大根はスーパーと直売所へ、キャベツはJAメロン、ショウガは直売所へと販売先は多岐にわたっています。しかし、販売についてはこれからも考えていかなければならないと浮気さんは言います。「いいものを作る自信はありますが、問題はどのくらい売れるかですね。これからは販売に力を入れていきたい。販売専門の社員を入れようかとも思っているところなんです」



タケノコの畑



経営規模 米16ha(受託15.4ha含む)
畑4ha(委託2.5ha、自作1.5ha)
保有機械 大型トラクタ3台、
汎用コンバイン3台、
乾燥機、粉摺り機1台、
田植機3台



相当セールスマン
左から、
三菱農機販売 三輪淳二郎さん
玉谷産業 木村庄吾さん



左から、辻村和也さん、辻村誠さん、赤島栄司さん

USER VOICE

京都府木津川市

農業法人合同株式会社農家辻清

代表 辻村和也 さん



京都府木津川市山城町を
お訪ねしました。



米とタケノコの
直売型農業に取り組む中核農家

京都府南部にある木津川市は、人口7万人の町ですが、西の大阪、北の京都へ30キロ南の奈良市へは8キロと近畿圏の要衝にあります。古の大和盆地の入り口、近くには平等院で有名な宇治市もあります。近年はベッドタウン化してきました。市内を流れる木津川の豊富な水に恵まれて豊かな農地を形成しており、大消費地を背景に大規模なタケノコ栽培にも取り組むユニークな農業経営を実践しています。

**タケノコの収穫時期が
米の育苗作業と重なるので
大変です。**

この地で米とタケノコを中心に農業法人合同会社「農家辻清(つじせい)」を設立し、代表となったのが辻村和也さん。専業農家で奮闘していた辻村さんですが、個人では限界があると判断し、今年から法人化したのです。現在は辻村さんを含めて弟の辻村誠さん・赤島栄司さんの3人という体制ですが、これから規模を拡大していくという構えです。

お米作りの基本は水。

農業機械はオール三菱。

「米作りで大事にしているのが水。辻村さん宅では、ほぼ無農薬で作っています。それには水質管理が大切で細心の注意を払っています。地下水をポンプアップしていますが、その地下水も常に検査しています」

水のほかに、肥料にも気をつけている

「忙しいことは確かですが、TTPPと言っ難題もあるし、これからはコスト削減と規模拡大していくかないと経営できないですからね」と辻村さんは言います。

農業法人合同会社農家辻清さんでは豊かな水と土壌に恵まれて、確かな農業を営んでいました。

来年は今年より益々受託がふえそうだと辻村さん。このあたりは一反以下の小圃場が多く、集積・集約化が進んでいないので、手間はかかります。それでも農地中間管理機構に登録し、さらに受託をふやそうとしています。

こうした農業を支えているのが農業機械。うちでは機械はオール三菱。機械がなければ農作業は二歩も進みません。機械を頼りにするしかないですね。壊れるとどうにもなりませんから、予備にもう一台購入するなど対策をあれこれ考えています」

来年は今年より益々受託がふえそうだと辻村さん。このあたりは一反以下の小圃場が多く、集積・集約化が進んでいないので、手間はかかります。それでも農地中間管理機構に登録し、さらに受託をふやそうとしています。

グローバル化の中、

TPPを契機に新しい道筋を！

10月5日、TPP（環太平洋連携協定）が大筋合意に至り、20日には政府が交渉の内容を公表しました。これによると、関税の撤廃率は類を見ない高率となっています。これまで聖域とされてきたコメ、麦、牛・豚肉、乳製品、甘味資源作物（サトウキビ等）の重要5項目でも一部の関税が撤廃され、ミニマムアクセスの上積みや関税率の段階的引き下げなど、将来的にはきわめて不透明な内容となっています。今後、日本の農業はどうなっていくのか、規制改革会議農業ワーキングのメンバーで、農業などの規制緩和に取組んでいる東京大学大学院の本間正義教授に伺ってみました。



本間正義 教授

1951年生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科、農業・資源経済学専攻経済学研究室教授、アイオワ州立大学博士。山形県出身。1974年帯広畜産大学畜産学部卒業。1976年東京大学大学院農学系研究科修士課程修了。2010～12年度日本農業経済学会会長。日本国際フォーラム政策委員。規制改革会議農業ワーキングのメンバーで農業などの規制緩和に取組んでいる。著書に「農業問題の政治経済学—国際化への対応と処方」（日本経済新聞社）、「現代日本農業の政策過程（総合研究現代日本経済分析3）」（慶應義塾大学出版会）、『農業問題：TPP後、農政はこう変わる』（ちくま新書）等。

「今回の合意によると、日本が例外措置とするよう求めた重要5品目の一部も関税が撤廃することになったようです。今回の合意について、どうお考えですか？」

「TPPでは、全体の95パーセントの関税を撤廃することを目標にできました。しかし、重要5品目だけで65パーセントに達するので、そもそも無理な要求だったのです。そういう条件の中で、今回政府はよく交渉したと言えるでしょうね」

「重要5品目については約3割が関税撤廃されることになりました。これについて不満の声も大きいようですが？」

「アメリカは現在トラックに20数パーセントの関税をかけていますが、これを30年かけてゼロにすることに合意しました。日本のコメもなぜそうできなかったのかと思います」

「農家の皆さんはこれからも米価は下がるだろうと思っているようですね。TPPに関係なく米価はこれからもう下がるでしょう。しかし、これまでのように補助金だけでは未来はありません。補正予算で金をつぎこむだけでは展望は開けないですよ。今回、コメはひとまず守られましたが、これで問題が解決したわけではありません。要するに問題を先送りしたに過ぎないのです。農地の集積化も求められますが、現状ではだれかが



「今回の合意によると、日本が例外措置とするよう求めた重要5品目の一部も関税が撤廃することになったようです。今回の合意について、どうお考えですか？」

「TPPでは、全体の95パーセントの関税を撤廃することを目標にできました。しかし、重要5品目だけで65パーセントに達するので、そもそも無理な要求だったのです。そういう条件の中で、今回政府はよく交渉したと言えるでしょうね」

「重要5品目については約3割が関税撤廃されることになりました。これについて不満の声も大きいようですが？」

「アメリカは現在トラックに20数パーセントの関税をかけていますが、これを30年かけてゼロにすることに合意しました。日本のコメもなぜそうできなかったのかと思います」

「農家の皆さんはこれからも米価は下がるだろうと思っているようですね。TPPに関係なく米価はこれからもう下がるでしょう。しかし、これまでのように補助金だけでは未来はありません。補正予算で金をつぎこむだけでは展望は開けないですよ。今回、コメはひとまず守られましたが、これで問題が解決したわけではありません。要するに問題を先送りしたに過ぎないのです。農地の集積化も求められますが、現状ではだれかが

「今回の合意によると、日本が例外措置とするよう求めた重要5品目の一部も関税が撤廃することになったようです。今回の合意について、どうお考えですか？」

「TPPでは、全体の95パーセントの関税を撤廃することを目標にできました。しかし、重要5品目だけで65パーセントに達するので、そもそも無理な要求だったのです。そういう条件の中で、今回政府はよく交渉したと言えるでしょうね」

「重要5品目については約3割が関税撤廃されることになりました。これについて不満の声も大きいようですが？」

「アメリカは現在トラックに20数パーセントの関税をかけていますが、これを30年かけてゼロにすることに合意しました。日本のコメもなぜそうできなかったのかと思います」

「農家の皆さんはこれからも米価は下がるだろうと思っているようですね。TPPに関係なく米価はこれからもう下がるでしょう。しかし、これまでのように補助金だけでは未来はありません。補正予算で金をつぎこむだけでは展望は開けないですよ。今回、コメはひとまず守られましたが、これで問題が解決したわけではありません。要するに問題を先送りしたに過ぎないのです。農地の集積化も求められますが、現状ではだれかが



「規模拡大については農水省でも農地中間管理機構を設けるなどとして取り組んでいます。」

「農家を助けることではなく、もっと抜本的な戦略を立てて農家の背中を後押しすることです。たとえば輸出戦略を立て、どうやって農家を助けるかとか、商社見学に行つてどう売っているかを学ぶのもいいですね。日本の食料を売ろうと海外でジャパンフードフェアなどを開いています。それだけでは日本の食料の価値は伝わりません。それよりも、たとえばレストランの厨房に入れて日本の食料のすばらしさをシエフに伝えていく方がいいと思います。そういう根本的な部分のアップをしないといけない……」

「和食がユネスコの無形文化財に指定され、世界でも人気が出ているようですね。」

「淡路島にうまい豚肉を生産する農家があります。そこへ香港のバイヤーを招待して売ろうとしたことがあるのですが、バイヤーには不評だった。なぜかという、日本の豚は脂身が多いので、香港の人は食べないという。そこで、普通なら脂身が少ない豚を生産しようということになるのですが、淡路島の農家はそうはしなかった。ここで発想を変えて、香港の人に脂身の多い豚肉を使った料理を紹介し、食へてもらおうというふうに考えたのです。和食のメニューとしてセットで売る。これもひとつの売り方ですね。そういう工夫も必要ですね」

「TPPで他国の関税が下がって輸出しやすくなることはたしかですね。」

「内外価格差が狭まっているし、これまでよりチャンスが増えるのは確かでしょう。コメもアメリカやカナダに売れるようになるかもしれない。日本のコメのほうがおいしいのは確かです。欧米では日本のおにぎりがブー

「TPPも悪いことばかりではない、ということですね。」

「TPPは農業を含めてグローバル化していくという交渉であって、この潮流に逆行することはできません。この流れの中で、どう行動すべきかを考えたいと思います。いかに変化に対応するかです。変化に対応しないと生き残れないのです。ダーウィンが言っているように、強い者が残るのではなく、変化に対応できる者が残る、のです。TPPもマイナスマインばかりを考えて落ち込んでいては仕方ありません。TPPが決まったのなら、ではこれからどうするか、いかに対応していくか、そういう思考をしなければなりません。これからは、世界がなにを求めているかを知ることが大切です。これからはプロダクトアウトからマーケットインへ変わっていくのです。つまり、ただ作ればいいのではなく、消費者がなにを求めているかを知ってから作るものが求められるのです。皮肉なことに、TPPがそういう道筋をつけてくれたのかもしれない。新しい道筋が見えれば、新しいビジネスモデルも生まれるでしょう。」

「先進的な農家はよく情報を集めています。なんとか輸出展開しようとしている農家もいます。そういう農家のために、仕組み作りをしてあげるものが大切ではないですか？」

「なにをするかは生産者の問題です。なにをしようかわからないという農家は生き残れないでしょう。言われた通りやるのではなく、自分で考えるべきですよ。畜産なら工場を作るとかね。先進的な農家はなにが必要か気づいているはず。政府もそういう人のための支援はしてもらいたいですね」

「ただ、あまり時間がありません。農水省も工程表を重視しているようですが、工程表があれば励みにはなりませんね。」

「ただの工程表ではなく、ビジョンがはっきりした工程表が必要ですね。ゴールをきちんと定めれば、生産者もやる気が出てくるでしょう。20年後30年後の日本農業をどうするか、そういう長いスパンの工程表で希望を与えてほしいですね」

SBS方式の国別枠を設けることで TPPに対応

TPPの大筋合意で影響を受ける農産物のうち、最も影響が大きいのが、コメ、麦、牛・豚肉、乳製品、砂糖の原料の5項目です。交渉の結果、農産物の重要5項目では、5・8品目のうち70%に当たる4・1・2品目が関税撤廃の例外となりました。最大の焦点となっていた主食用のコメについては、WTOで決められていた77万トンの枠のほかに、新しく輸入枠として約8万トンの枠を設けることで合意しました。

日米協議では、米国産米の特別輸入枠が最大の焦点となっていました。日本は輸入総量が増えないMA枠内で米国産米を優遇することと、特別輸入枠の規模を抑え、輸入を義務化しないよう求めてきました。交渉の結果、年間77万トンとされているMA（ミニマムアクセス）を維持したうえで、新しくSBS方式の輸入枠を設けたのです。SBSとは、売買同時入札方式という意味。国家貿易の下で、輸入業者と国内の実需者との実質的な直接取引を可能とする売買方式のことです。

当初3年は米国から5万トン、豪州から6000トンで、これを段階的に増やしていき、13年目以降は米国から7万トン、豪州から8400トンまで増やします。最大で7万8400トン増えることになりませんが、その分は国が買い上げて備蓄に回す予定ですが、価格に影響を与えることはありません。また、保管期間を現状の5年から3年程度に短縮します。

国内の需要動向に応じた輸入や実需者との実質的な直接取引を促進するため、既存のWTO枠の運用の見直しとして、既存の一般輸入の一部について中粒糖・加工用に限定したSBS方式（6万トン）へ変更することとしています。しかしMA枠内の輸入量は77万トンで固定されているため、こうした優遇措置を導入しても、日本がMAで輸入する米の総量は増えないこととなります。

アメリカは極めて過大な量を輸入するよう要求してきましたが、交渉の結果これで妥結したのです。ただし、SBSは輸入を保障するものではなく、26年度は1万トンに過ぎないし、国別枠も輸入を保障するものではなく、需要がなければ枠は埋まらないのです。

米及び米粉等の国家貿易品目

現行の国家貿易制度を維持するとともに、枠外税率（米の場合は341円/kg）を維持した上で、米、豪州にSBS方式^{※1}の国別枠を設定。（国別枠は、米と米粉等の国貨品目を対象として一体的に運用。）
※SBS方式とは、国家貿易の下で、輸入業者と国内の実需者との実質的な直接取引を可能とする売買方式。

既存のWATO枠(77万トン)		既存のWATO枠(77万トン)	
既存の一般輸入 10万トン [加工用に販売する他、 資料用・援助用等に活用]	既存のSBS枠 10万トン (品種・用途制限) なし	既存の一般輸入 ^{※1} 加工用に販売する他、 資料用・援助用等に活用]	既存のSBS枠 ^{※2} 10万トン (品種・用途制限) なし
国別枠(SBS枠)			
米国枠		欧州枠	
5万トン (当初3年維持)		0.6万トン (当初3年維持)	
7万トン (13年目以降)		0.84万トン (13年目以降)	

^{※1} 国内の需要動向に応じた輸入や実需者との実質的な直接取引を促進するため、我が国は、既存のWTO枠のミニマムアクセスの運用について見直しを行うこととし、既存の一般輸入の一部について、中粒糖・加工用に限定したSBS方式(6万トン)へ変更する予定。
^{※2} 円滑な入札手続きを行うため、透明性向上の観点から、SBSの運用方法の一部について、技術的な変更を行う予定。